浜松から世界へ…
世界に羽ばたくアーティストたち

浜松生まれ、浜松育ち、今や日本を飛び出し、世界で活躍する比類なき才能を持つアーティストたち。世界中のファンを魅了してやまない、創造性豊かなメロディラインを紡ぎ出す感性は、いかにして磨かれたのか。その「過去」と「現在」に迫るスペシャルインタビュー。

Hamamatsu Music Spirits
Worldwide Artists

世界中を、音楽の力で笑顔に変えるピアニスト

ピアニスト

上原ひろみ

Hiromi Uehara

―約2年ぶりとなる、新作アルバムを携えての日本ツアーということで、やはり日本公演、特に浜松公演は、他の国でのライブに比べ違いはありますか。

自分の生まれ育った国に帰ってきてライブができるのは、やっぱりうれしいです。その中でも浜松はふるさとなので、家族や親戚、お世話になった先生方、同級生、街の匂い…すべてがとても特別です。街に対して、お世話になった人たちに対して、「恩返しできるような公演になれば」という想いがあります。

―ツアータイトルにもなっている最新アルバム『ALIVE』ですが、どのような思いで作られたのでしょうか。

アルバム『ALIVE』には、「生きる」というそのままの意味と、「ALIVE（ひとつのライブ）」という意味を込めました。ライブはいつも「生きてて良かった！」と思う瞬間です。

―上原さんの作る楽曲は、曲自体ももちろんそうですが、曲のタイトルにも深いメッセージが込められているように感じます。曲作りはどのようにいつているのでしょうか。

もともと曲のかけらができたところで、いくつかのキーワードが頭に浮かび、それをもとに曲を広げていく感じです。

―世界を飛び回りながらライブを続けていくには、相当な体力と気力が必要だと思います。モチベーションを維持し続けられる原動力は何でしょうか。「もうだめだ～」と壁にぶつかることはないのでしょうか。

原動力は、音楽に対する情熱です。「もうだめだ～」はないですが（笑）、壁にぶつかることはあります。でも、そのときは、壁を乗り越えた後のひとつたくましくなった自分を想像し、どう乗り越えるかに集中します。

―世界を旅していて、故郷の浜松を思い出したり、郷愁を感じて曲を作ったりすることはありますか。

浜松の茶畑をイメージして、「グリーン・ティー・ファーム」という曲を書きました。

―浜松にいた頃の印象に残っている思い出を教えてください。

やっぱり音楽に対して、とても情熱をもって接していた事です。学校行事でも、小学校の音楽会では当時流行っていた、ちびまるこちゃんの『踊るポンポコリン』をクラスで合奏できるように編曲したり、中高の合唱大会では、一生懸命合唱の指導をしたり。中学校ではお楽しみ会みたいな学校行事があると、体育館でピアノ演奏をさせてもらったり、高校では軽音楽部で定期的にライブをやったり、文化祭でもスペシャルバンドを組んだりして、とにかく音楽が大好きな子どもだったと思います。

―小中高生には、上原さんに憧れている子もたくさんいると思います。練習法や上達法など、子どもの頃にやっていたことで今に影響を与えているものはありますか。

私は、疋田範子先生という、音楽に対してあふれる情熱を持った先生に出会えたことと、素晴らしいミュージシャンのコンサートにたくさん行き、生の音に触れたことが大きかったです。「いつか自分もこういう音を出してみたい」という好奇心が、自分を努力させると思います。

―浜松にいた頃は、どういう将来のビジョンを持ってらっしゃいましたか？

世界中でピアノを弾いて、たくさんの人を笑顔にできたら、と思っていました。

―まさに、思い描いたビジョンを実現されているわけですね。最新アルバムの中に『ドリーマー』という曲がありましたが、上原さんにとって「夢」とはどういうものですか。

「夢は、かなわないかもしれない、はかないもの」だと思っています。何かを成し遂げたいと思う時はいつも、それを夢とは思わずに「目標」にしています。その目標から逆算して、今何をやるべきかを常に考えます。

―では、音楽活動での今後の「目標」を教えてください。

長く続けていけるよう、日々精進することです。

―浜松に帰省されたら何をしたいですか？

みやひろ※のラーメンと浜松餃子を、たらふく食べたいです。

―「故郷の味」ですね（笑）。最後に、ピアノを習っている子どもたちを含め、若い世代にメッセージをお願いします。

たくさん素晴らしいものを見たり聴いたり、体験してください。その感動が好奇心に繋がり、挑戦する原動力になると思います。

※みやひろ…昔ながらの中華そばが人気のラーメン店（浜松市中区）。

ライブはいつも「生きてて良かった！」と思う瞬間

上原ひろみ ザ・トリオ・プロジェクト feat. アンソニー・ジャクソン&サイモン・フィリップス「ALIVE」発売中！

ベースのアンソニー・ジャクソン、ドラムスのサイモン・フィリップスとのトリオでの3作目となるアルバム。「生きる」という人生をテーマにした、ザ・トリオ・プロジェクトの壮大なる最新作。全9曲を収録。

2,808円　ユニバーサルミュージック（UCCT-1244）

Profile

1979年生まれ。浜松市出身。1999年にボストンのバークリー音楽院に入学。在学中にジャズの名門テラークと契約し、2003年にアルバム「Another Mind」で世界デビュー。翌年『サラウンド・ミュージック・アウォード』最優秀新人賞受賞。2011年の第53回グラミー賞においては参加アルバム「スタンリー・クラーク・トリオ feat.上原ひろみ」が「ベスト・コンテンポラリー・ジャズ・アルバム」を受賞。また、2014年には日本人アーティストでは唯一となるニューヨーク・ブルーノートでの10年連続一週間公演を成功させ、毎年、世界を舞台に約100日150公演のツアーを続けている。ドリームズ・カム・トゥルー、矢野顕子、東京スカパラダイスオーケストラらとの共演ライブなども行なっている。
2006年 浜松市やらまいか大使に就任
オフィシャルサイト http://www.hiromiuehara.com/

ピアニスト・作曲家

村松崇継

Takatsugu Muramatsu

日本の映像音楽をリードする ワールドワイドな作曲家

―今年は、思い出のマーニー」の音楽を担当されるなど、大変ご活躍された一年でしたが、振り返ってみていかがでしたか。

あっという間に過ぎた、実り多き一年でした。NHK全国学校音楽コンクールにも課題曲の制作で参加させていただくなど、新しい仕事も増えて、本当に忙しかったです。

―長編アニメの音楽制作は初めてだったと伺っています。実写映画との大きな違いなどはありましたか。

アニメの長編作品は確かになかったのですが、個人的にジブリの作品はアニメというよりも実写ドラマや実写映画と似たような感覚で観ていたので、今までと同じような感じでできましたね。「思い出のマーニー」の音楽制作に関しては、楽器の編成1ロールごとに1、2ヶ月かけて、音楽の入り方やフェードアウトのタイミングなど、細かいところまでディスカッションしながら作り上げていきました。

―幼い頃からピアノを習い、高校生の頃にはプロのピアニストとしてデビューされていらっしゃいます。いつ頃からプロを目指し、どんな練習をされていたのでしょうか。

15歳で進路を考えたときに、音楽家になろうと思いました。クラシック曲の演奏にも励んでいましたが、普段はほとんど、遊び弾きや即興、自作曲を弾いていましたね。

―浜松での印象に残っているエピソードを教えてください。

自転車で走ったことですかね(笑)。学校で嫌なことがあると、中田島砂丘まで自転車で走って海を観たり、浜北森林公園に向かってみたり、いろんなところに行きました。

―村松さんが感じる、浜松の魅力を教えてください。

これは本当にいつも不思議だなと感じるのですが、東京で出逢う浜松出身の人たちはみんな輝いていて、何か夢を追いかけたり、がんばり続けている人ばかりです。浜松で育った人はどこかに「やらまいか精神」が根付いているのかもしれません。浜松の人の人柄、そして、山、海、豊かな自然に囲まれた環境。この土地はこれまでも偉大な方々を生んできていますし、これからも世界に向けて発信できる可能性がすごくあるといつも感じます。自分がここまで来れたのも浜松出身だから。浜松のおかげです!

―今後の目標を聞かせてください。

もっともっとワールドワイドに活躍できる作曲家を目指していきたいです。

―最後に、村松さんのようなピアニスト・作曲家を目指している若い世代に一言お願いします。

夢は叶えるためにあるものだと思います。音楽の道は正直険しい。自分でさえいつ躓落とされるかわかりません。でもそんな険しい道だからこそ、自分の音楽が多くの人々に届いたときの感動、やりがいは素晴らしいものです。夢をあきらめず走り続けてください。

Profile

1978年生まれ。浜松市出身。国立音楽大学作曲学科卒業。高校在学中にオリジナルのピアノ・ソロ・アルバムでデビュー。作曲家としても早くからその才能が注目される。大学在学中に『狗神』をはじめとする映画音楽を担当し始め、2004年には歴代最年少でNHK連続テレビ小説の音楽を担当。これまでに50タイトル以上の映画、TVドラマ、舞台等の音楽を手掛けた。主な作品に「クライマーズハイ」「大奥」「誰も守ってくれない」「アントキノイノチ」などがある。その他にもクラシックからポピュラーまで、国内外の幅広いジャンルの著名アーティストへの楽曲提供も多い。(竹内まりや、安倍なつみ、芦田愛菜など)。2014年スタジオジブリの最新作『思い出のマーニー』の音楽を担当。
2008年 浜松市やらまいか大使に就任
オフィシャルサイト http://www.muramatsu-t.net/

作曲家だけでなく、ピアニストとしても活躍する村松さん。著名アーティストとのコラボレーションなど、コンサート活動も精力的に行っている。自身の最新オリジナルアルバムは『Piano Sings』。オリジナル曲はもちろん、映画やドラマの主題歌などもピアノソロバージョンで収録されている。

〈TKCA-74120〉

村松さんに、思い出のマーニーの制作秘話を伺った。「一番苦労したのは、杏奈がマーニーに出会うまでですね。監督から『音楽は語らなくてもいい。杏奈の心に寄り添ってくれ』と言われて…。考えた末、閉ざされた杏奈の心に後ろからそっと寄り添うような、余計な音をそぎ落としたシンプルな編成になりました。普段はとちらかというと音楽で語って表現するタイプなので、そのバランスはけっこう難しかったですね」。

スタジオジブリ最新作「思い出のマーニー」
サントラ音楽集(CD2枚組)発売中!

アメリカ仕込みの音楽は言葉を超える

作曲家・指揮者

佐藤賢太郎

Kentaro Sato

―ひとつのカテゴリーにとらわれず、世界を股に掛けご活躍されてきた佐藤さんですが、現在はどのような活動をされているのでしょうか。

作編曲、指揮、音楽教育といった音楽活動が主ですが、ナレーションや吹き替えなど声の仕事や、出版活動も行っています。

―多方面でご活躍ですね。どのようにして活動の場を広げられてきたのでしょう。

もともと映画制作の仕事がしたくて、アメリカのハリウッド・ロサンゼルスに留学したこと、さまざまな人が集まり、英語を使う環境があったことが良い土台だったのでしょう。

―初めから音楽家を目指されていたわけではないんですね。いつ頃から音楽を?

渡米した頃は、音楽制作がコンピューター中心になる転換期でした。自分で改良したソフトなどが業界の方の目に留まって、いつのまにか仕事になっていました。

―ご自身の音楽のルーツはどこにあるのでしょうか。

興味の幅が広かったということでしょうか。ゲーム・パソコン・文学・映画・アニメ・スポーツ、とにかく色々なことに取り組んだことが、現在の活動の土台となっています。音楽ではエレクトーンを少し習っていたことと、歌うことが好きで、ずっと続けていたこと。そして高校生のときに取り組んだ演劇活動が、自分を表現する活動のルーツになっています。

―浜松で過ごした頃の印象深い出来事を教えてください。

やはり、高校時代に取り組んだ演劇活動ですね。最初は部活で始めて、徐々にいろんな劇団に出入りするようになって。そこの先輩方から学んだ事は、今でも役立っています。渡米を決めたきっかけも、劇団の方からの紹介でした。

―佐藤さんが感じる、浜松の魅力は何でしょうか。

「やらまいか」の言葉が示すように、広い分野で「挑戦する」ということに対して寛容なところだと思います。それは、僕が勉強したアメリカでも通用する考えです。

―今後はどんな活動に力を入れていくのでしょうか。

あえてひとつ挙げるとしたら、今は教育活動です。僕が学んだことを、日本の人たちに伝えたい。アメリカに行って思ったのは、向こうは多民族国家だけあって「伝える技術」がすごく発達しているということ。はっきりものを言わなければ、誰も自分を理解してはくれない。それに比べて日本人は「伝える技術」が低いと思います。人を心から動かすのは夢や情熱ですが、それを伝える基礎は言葉にあると思っています。その辺りの事を、子どもたちにしっかりと伝えていきたいです。言葉によるコミュニケーションを大切にできる人は、言葉を超える力を持つ音楽の世界でも、自分らしく伸びていけると思っていますから。

©2011 SQUARE ENIX CO.,LTD

自身の音楽活動の他に、『ファイナルファンタジー零式』をはじめとするFFシリーズのオーケストラや合唱編曲、作詞までをも手掛ける佐藤さん。「ゲーム音楽は映画音楽とは全く違います。初めにコンセプトだけがあって、そこからどこまで広げられるか。自由だからこその難しさがありますね」。

Profile

1981年生まれ。浜松市出身。高校卒業後に映画制作を学ぶため渡米。ロサンゼルス・ハリウッドで学んだ作編曲家として、TVや映画、ゲーム音楽、オーケストラ、ジャズ、合唱など、幅広い音楽活動を展開。特に合唱曲は、手掛けたミサ曲がバチカン市国で演奏されるなど、教会や合唱界から高い評価を受けている。また、指揮者・指導者としても国内外で活躍。その他にも作詞、書籍出版、ナレーションなど多方面で才能を発揮している。ニックネームはKen-P(ケンピー)。2013年 浜松市やらまいか大使に就任。
オフィシャルサイト http://www.wisemanproject.com